

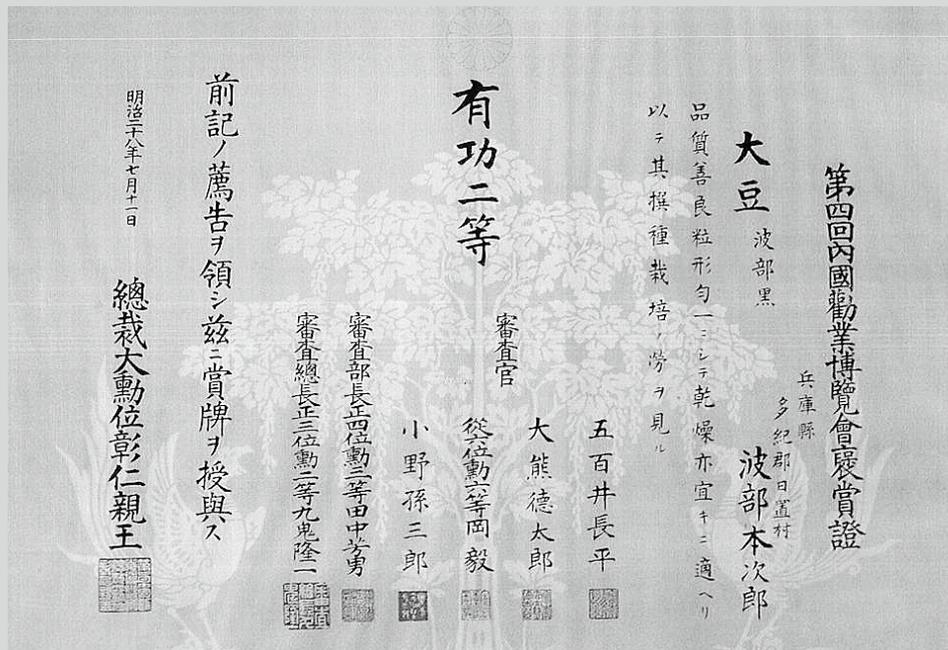
丹波篠山の黒大豆栽培 ～ムラが支える優良種子と家族農業～

黒大豆の良い種子を選び出し栽培振興に力を注いだ波部家

大豆の品種改良にはさまざまな方法がありますが、「大きい」「丸い」など、よい種だけ形質が安定するまで選び出していく方法を「選抜育種」といいます。今では全国各地で栽培されるようになった優良品種「丹波黒」も、この方法で選ばれたものです。現在、品種改良は主に国や県の研究機関で行われています。しかし、そんな研究機関などなかった江戸時代、篠山藩が質の良い黒大豆を栽培するよう奨励したことから、日置村の豪農大庄屋の波部六兵衛は選抜育種に必要な試験農地を設け、黒大豆の品種改良に取り組みました。

父・六兵衛の志を継いだ波部本次郎は、明治4年(1871)、大粒の黒大豆品種を選び出し、「波部黒」と名付けて丹波篠山のあちらこちらで種子を配り、栽培を勧めました。「波部黒」が優れていることを聞きつけた全国各地の農事試験場や農学校などから、種子の配布を求められたといえます。明治28年(1895)の内国勸業博覧会において、「波部黒」は出品された大豆4,114品の中で最高ランクの5品に選ばれ、有功二等を受賞しました。

本次郎は国立銀行の頭取や兵庫県議会議員などをつとめ、明治34年(1901)には多紀郡農会の会長に就任しました。農業の改良や畜産の奨励、養蚕の改善に力を注ぎ、その指導ぶりは親切だったといわれています。



▲ 明治28年(1895) 第四回内国勸業博覧会の褒賞證(写し)

日本農業遺産認定

丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史



波部本次郎

日本農業遺産ロゴを設定しました

秋の味覚シーズンに向けて、黒大豆の商品PRなどに活用できる名称およびロゴを設定しました(令和3年度暫定)。市ホームページからダウンロードできますので、ご活用ください。

日本農業遺産認定

丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史



市ホームページ